

電車でお越しの方



車でお越しの方



- 電車でお越しの方**
  - 南流山駅 (JR武蔵野線・つくばエクスプレス線) をご利用の方  
南流山駅より徒歩約 12 分
  - 鰯ヶ崎駅・小金城趾駅をご利用の方  
鰯ヶ崎駅より徒歩約 10 分、小金城趾駅より徒歩約 10 分
  - 新松戸駅 (JR・地下鉄千代田線) をご利用の方  
新松戸駅よりタクシーで約 8 分 (おおよそ 900 円)
- 車でお越しの方**
  - 常磐道 茨城方面よりお越しの方  
流山 IC より約 6.5km、所要時間約 18 分
  - 常磐道・東京外環自動車道 東京方面よりお越しの方  
三郷 IC より約 7.0km、所要時間約 20 分
- 無料送迎バス**  
南流山駅 (JR 武蔵野線・つくばエクスプレス線) より送迎バス約 5 分

千葉愛友会記念病院 無料バス 時刻表

	月～土		月～金	
	病院	南流山北口	病院	南流山北口
7時	-	40	00	05
	50	55	20	25
8時	05	10	40	45
	20	25	00	05
	40	45	-	-
9時	00	05	40	45
	20	25	00	05
	40	45	20	25
10時	00	05	40	45
	40	45	00	05
	00	05	20	25
11時	20	25	40	45
	40	45	00	05
	00	05	20	25
12時	20	25	40	45
	40	45	-	-
13時	00	05	00	05
	20	25	20	25
(土) 最終便	40	45	40	45

※土曜日は、病院発 13:40 南流山駅北口発 13:45 が最終便です。  
※日・祝祭日・年末年始は運行致しません。

快適にご乗車いただくため、バス乗車時には以下の事柄をお守りください。

- ※安全運行のため途中下車・途中乗車はできません。
- ※走行中は席を立ったり、運転士に話しかけたり、窓から手や顔を出さないでください。
- ※携帯電話は電源を切るかマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- ※乗車中の飲食・喫煙はご遠慮ください。
- ※所要時間は病院行き・南流山駅行き北口共に通常 5~6 分ですが、道路事情により遅れることがあります。ご了承ください。
- ※南流山駅は北口タクシー乗り場の前方に停車します。
- ※南流山駅北口は長時間駐車ができないため到着後、すぐに発車します。

# 千葉愛友会

## だより

VOL.27  
2022.5

2022年 第27号  
発行日：2022年5月  
[編集発行] 広報委員会  
千葉県流山市鰯ヶ崎 1-1  
電話 04 (7159) 1611 (代表)  
http://chibaaiyu-kai.com/



院長 石塚 朋樹

皆様はがん検診を受診されていますか？がん検診は胃がん、大腸がん、肺がん、子宮頸がん、乳がんが対象となります。それぞれ受診対象となる年齢や受診間隔が異なりますが各自治体から検診の案内がご自宅に届くようになってきました。検査方法は自治体により多少の差異があります。

日本人の2人に1人が「がん」になり、3人に1人が「がん」で亡くなっています。一方、以前から日本は諸外国に比べ検診受診率が低いとの指摘がされており、国は「がん」によって亡くなる方を減らすことを目標にがん検診受診率を上げようとしています。過去の受診率のデータを調べると 2019 年までは少しずつ受診率が上昇していましたが、このコロナ禍で受診率が減少していることが最近問題となっています。2021 年のがん検診受診者数は 2020 年に比べると増加しましたがコロナウイルス感染拡大前の 2019 年に比べますと約 10% 減少しています。全国の病院でコロナウイルス感染対策のため一時検診業務の縮小をしていた時期がありましたが、当院を含め現在は検診業務も問題なく行っております。

- 検診未受診者へのアンケート結果を見ると「時間がない」、「健康に自信があり必要性を感じない」、「心配な時は医療機関を受診できる」といった回答が多いようです。その他「がんであるとわかるのが怖い」という回答や「がん検診は、見落としがあると思っている」との回答も見受けられます。確かにがん検診で全てのがんが見つかるわけではないですががん検診を受けることで死亡率が低下することはわかっています。
- また、がん検診の結果が「要精密検査」であった場合、必ず医療機関を受診して必要な検査を受けていただきたいと思います。せっかくがん検診を受けても精密検査を受けないためにがんを見逃してしまつては元も子もありません。当院では精密検査の対応も可能です。早い時期にがんが見つかることで、体への負担が軽い治療が可能であったり、治療の選択肢が広がる可能性があります。
- 今後、皆様のお手元にごがん検診の案内が届きましたら機会を逃さずに是非受診してください。

病院理念

地域の人々に信頼され、  
選ばれる病院

基本方針

- 患者様の権利・意思を尊重し、信頼される医療を提供いたします。
- 患者様が安全で安心できる医療に努めます。
- 医療人として自己研鑽し、医療の質向上に努めます。
- 地域基幹病院として、救急・周産期・小児医療の充実を図ります。
- 地域の関係機関と連携し地域医療に貢献いたします。

## 薬剤科紹介

薬剤科 吉田 友和

現在、薬剤科では常勤薬剤師 24 名、非常勤薬剤師 2 名、事務員 3 名で業務を行っています。

当院は院内処方を行っており、外来で処方が出た場合は院内薬局で薬を受け取ることができます。

下記に主な業務内容を紹介します。

### 病棟薬剤業務

病棟に配置された薬剤師は、最適な薬物療法の実施による有効性・安全性の向上などを目的に、投薬前に入院患者さんの持参薬等の服薬情報の確認や、入院中、特に注意が必要なハイリスク薬剤などを確認し、必要に応じて医師に処方提案を行うことや、他の医療スタッフからの薬剤に関する相談などにも対応するなど、他職種と連携しながら業務を行っています。



1階 薬局待合

### 薬剤管理指導

入院患者さんへの医薬品適正使用の推進を目的として、投薬後に患者さんごとに服薬指導を行い、副作用の予防や早期発見、患者さんの薬歴管理、服薬状況の把握や薬剤の効果を確認し、薬剤管理指導記録を作成し、医師や看護師等と情報共有を行います。患者さんやご家族にお薬の説明をすることによって、お薬を安全に使用していただくことができます。

### 注射薬の混合調製

食事が取れない患者さんの栄養補給のための高カロリー輸液や抗がん薬の治療が必要な患者さんのために、薬剤師が無菌的に注射薬を混合調製します。無菌室、クリーンベンチ、安全キャビネットなどで細心の注意を払って注射剤の混合調製を行っています。医療安全の確保には豊富な知識や新しい技術が必要となるため、研修等を通じて研鑽に励んでいます。



### 医薬品情報管理

医薬品を適正に使用するために医薬品に関する情報を収集・評価し、その情報を医師などの医療従事者や患者さんに提供し、最適な薬物療法の支援を行います。厚生労働省の副作用情報、医薬品の承認情報、企業から提供される各種情報に加え、学術論文や学会発表など医薬品を使用する上で必要となる情報を迅速に収集し、院内の関係者に情報提供を行います。

### チーム医療

医療専門職種の専門性を発揮し、積極的な協働・連携を図ること等により、医療の質を高め、患者さんの状況に的確に対応した効率的な医療サービスを提供するためにチーム医療の推進が図られます。病院薬剤師は、薬物療法の高度化を背景に、医療の質の向上、医療安全の確保の観点から、数多くのチームに参加することが求められており、栄養サポートチーム、感染制御チーム、褥瘡対策チームなどでも活躍しています。



## 嚥下(えんげ)内視鏡検査はじめました

内科 三村 俊介

近年、75歳以上の後期高齢者が増えています。それと共に肺炎でお亡くなりになる方も増えています。肺炎は日本人の死亡原因の第3位という高い割合を占めています。高齢者に起こる肺炎は誤嚥(ごえん)による「誤嚥性肺炎」が7割以上と言われています。

食べ物やだ液などを飲み込む動きを「嚥下(えんげ)」と言います。嚥下した食べ物やだ液などは、口から食道に送られます。それが誤って気管、肺に入ってしまうことを「誤嚥(ごえん)」と言います。

高齢になるとうまく飲み込みが出来ない嚥下障害が起こりやすくなります。病気が原因で起こることも多く、脳卒中、認知症、パーキンソン病などがあります。

食事中にむせることがある、物が飲み込みにくいと感じる、のどに食べ物が残る感じがあるといった症状が最近増えてきた方は嚥下障害の可能性があります。

嚥下障害の検査の1つに「嚥下内視鏡検査」があります。鼻の穴から細い内視鏡を入れ、のどの様子を観察します。その後、内視鏡を入れたまま水、ゼリー、実際の食事などを食べていただき、飲み込む際ののどの様子を直接観察します。だ液貯留の有無、飲み込み後の食物残留の有無、気管への流入(誤嚥)の有無などにより嚥下障害の程度を評価することが出来ます。この検査の結果をふまえて、今後の食事形態や食事時の注意点などの改善策を検討いたします。

食事がうまく摂れなくなってくると、栄養状態が悪化し、体力、免疫力が下がります。そこから新たな病気につながる危険性が高くなります。嚥下障害を放置し悪化させないようにしましょう。

嚥下障害検査のニーズに応えるため当院では新たに嚥下内視鏡検査をはじめました。言語聴覚士、管理栄養士、看護師など多職種で連携し行っています。嚥下障害で受診をご希望の方はまずは消化器内科を受診して下さい。

